



2005年3月期 中間期 業績概要

2004年10月28日
アンリツ株式会社
社長 塩見 昭

(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

中間期の総括

1. 中間期業績(連結)は、ほぼ計画どおり

売上: 381億円(計画は385億円)

営業利益: 8億円(計画は3億円)

経常利益: Δ 5億円(計画は Δ 7億円)

2. 売上

計測器は対前年同期比20%UP

(主に日本市場の移動通信用計測器が牽引)

中国は対前年同期比減少 (3G遅延による投資鈍化)

4. 通期業績は当初計画どおりの見通し

連結売上865億円

営業利益50億円

経常利益30億円

中間期業績概要

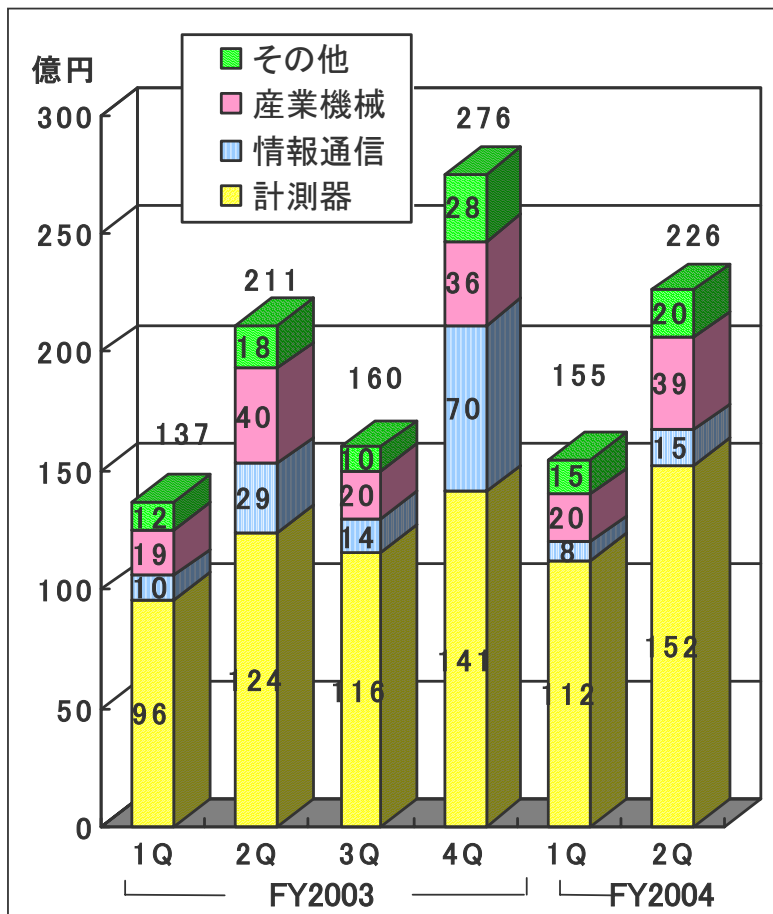
(1)損益およびキャッシュ・フロー 単位:億円 ()は前年同期比増減額 △:損失

	当中間期				前中間期	
	連結		単独		連結	単独
売上高	381	(+33)	209	(+15)	348	194
営業利益	8	(+14)	△ 4	(+10)	△ 6	△ 14
経常利益	△ 5	(+30)	△ 7	(+26)	△ 35	△ 33
税引前利益	△ 8	(-26)	△ 6	(-25)	18	19
当期純利益	△ 9	(-22)	△ 6	(-22)	13	16
FCF	38	(-53)	11	(-66)	91	77

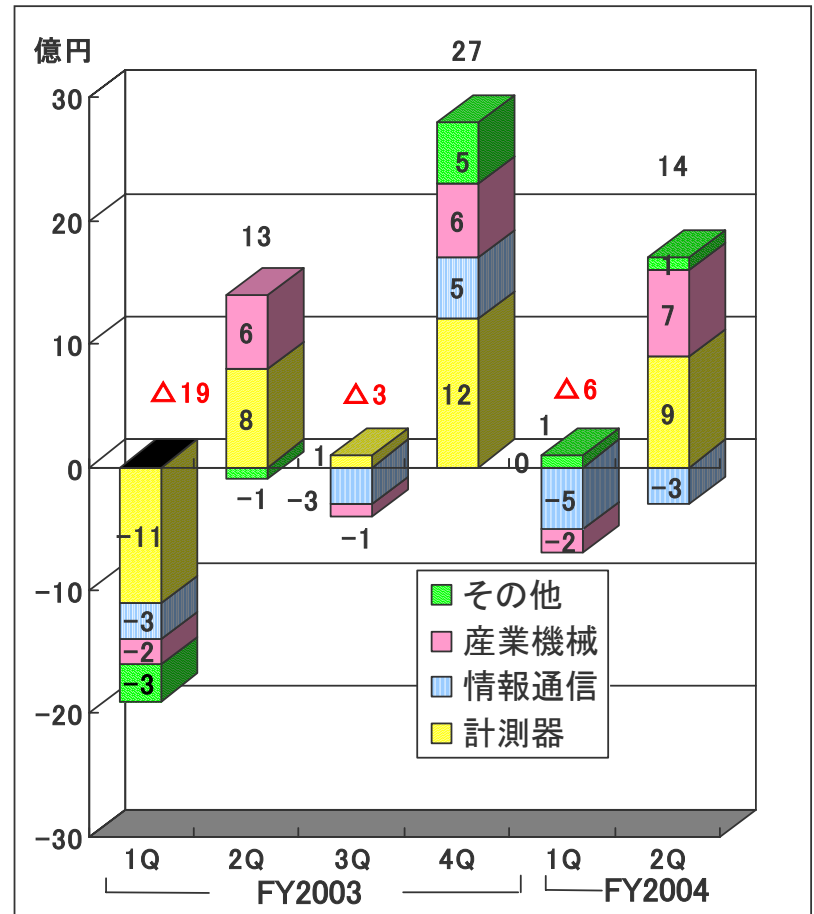
(2)事業セグメント別(連結) 単位:億円 ()は前年同期比増減額 △:損失

	当中間期				前中間期	
	売上高		営業利益		売上高	営業利益
計測器	264	(+44)	9	(+12)	220	△ 3
情報通信	23	(-16)	△ 8	(-5)	39	△ 4
産業機械	59	(+0)	5	(+1)	59	4
その他	35	(+5)	2	(+6)	30	△ 4
計	381	(+33)	8	(+14)	348	△ 6

事業セグメント別業績(連結)

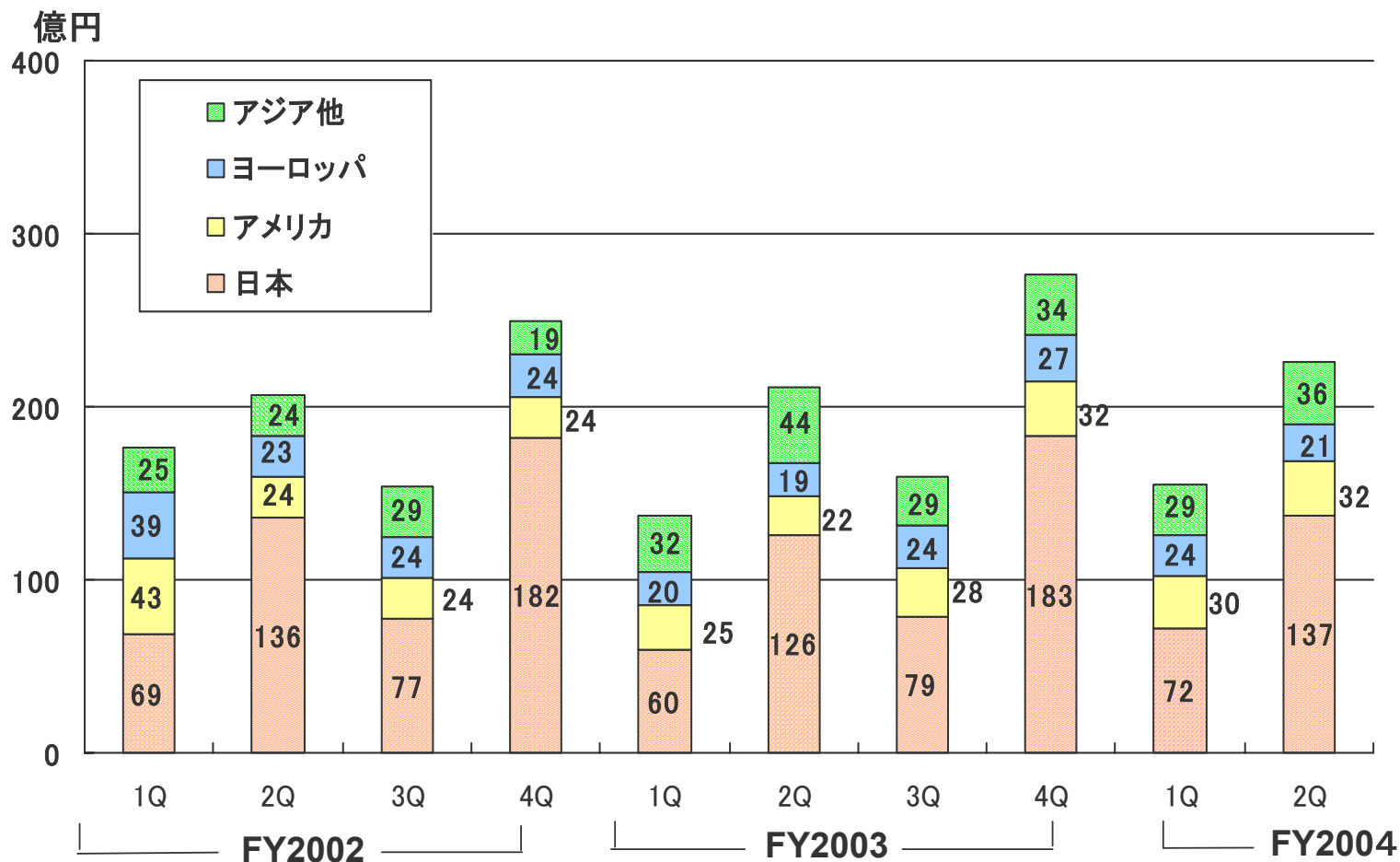


売上高

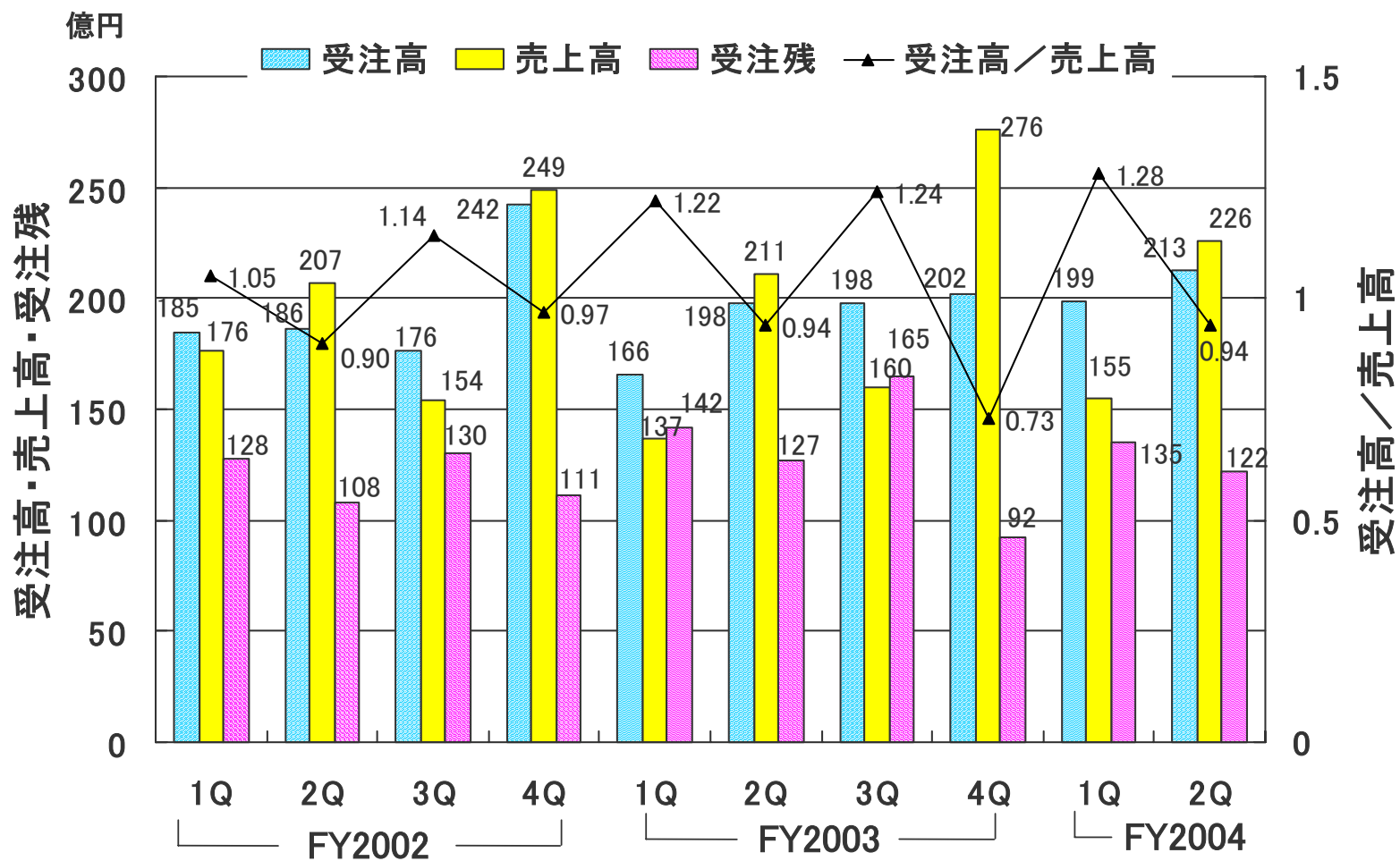


営業利益

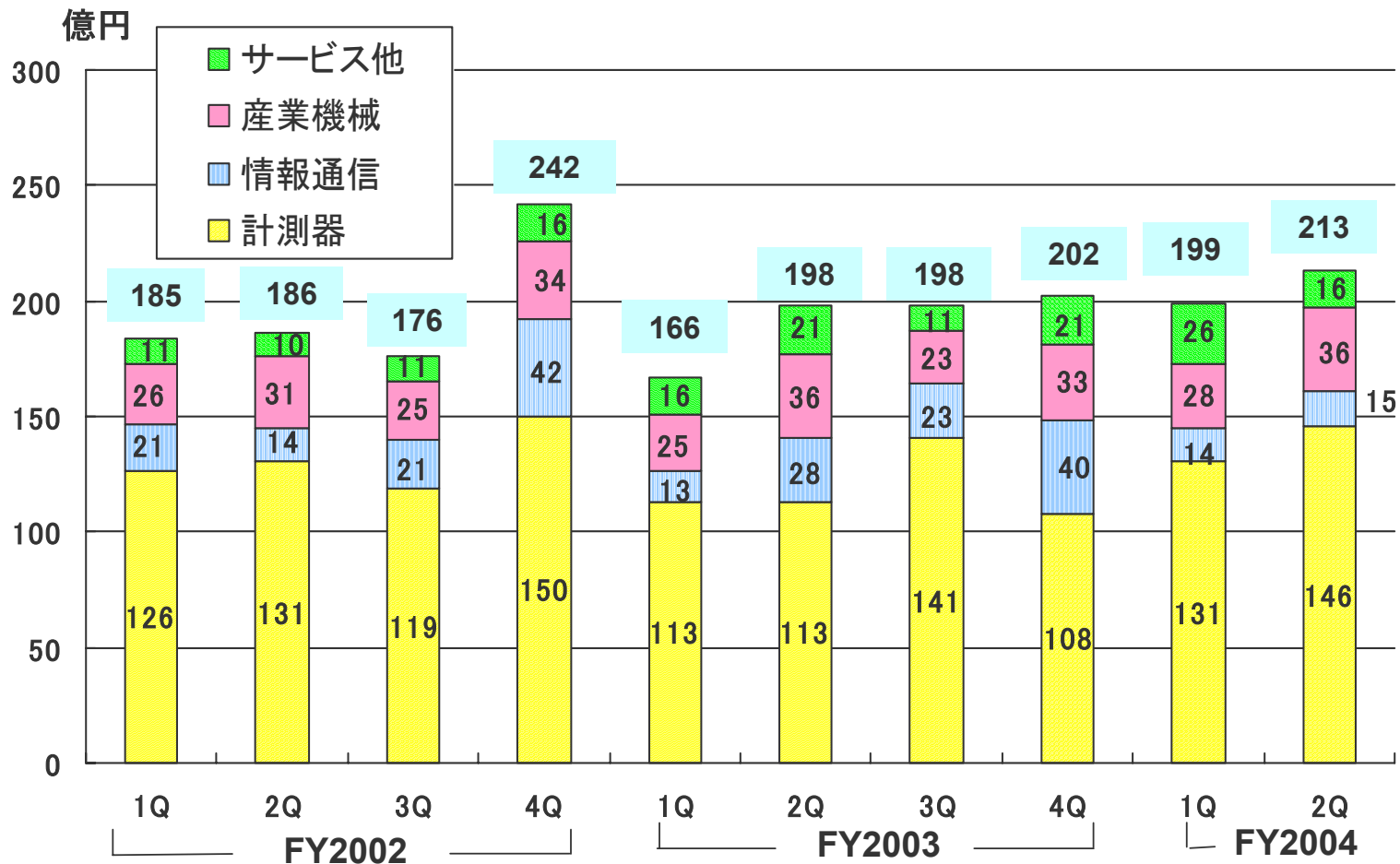
地域別売上高推移（連結）



受注・売上・受注残推移(連結)



セグメント別受注推移 (連結)



営業外・特別損益概要(連結)

(百万円)

	当中間期	前中間期	FY2003
営業利益	795	△641	1,808
金融収支	△413	△514	△1,047
棚卸資産廃棄等	△1,001	△2,033	△2,289
為替差損益	230	△225	△641
その他	△137	△69	△345
営業外損益計	△1,321	△2,841	△4,322
経常利益	△526	△3,482	△2,514
退職給付関係			2,573
棚卸資産評価損等			△3,480
固定資産売却損益等	△202	4,857	4,293
その他	△37	385	1,000
特損益計	△239	5,242	4,386
税引前利益	△765	1,760	1,871

△: 損失

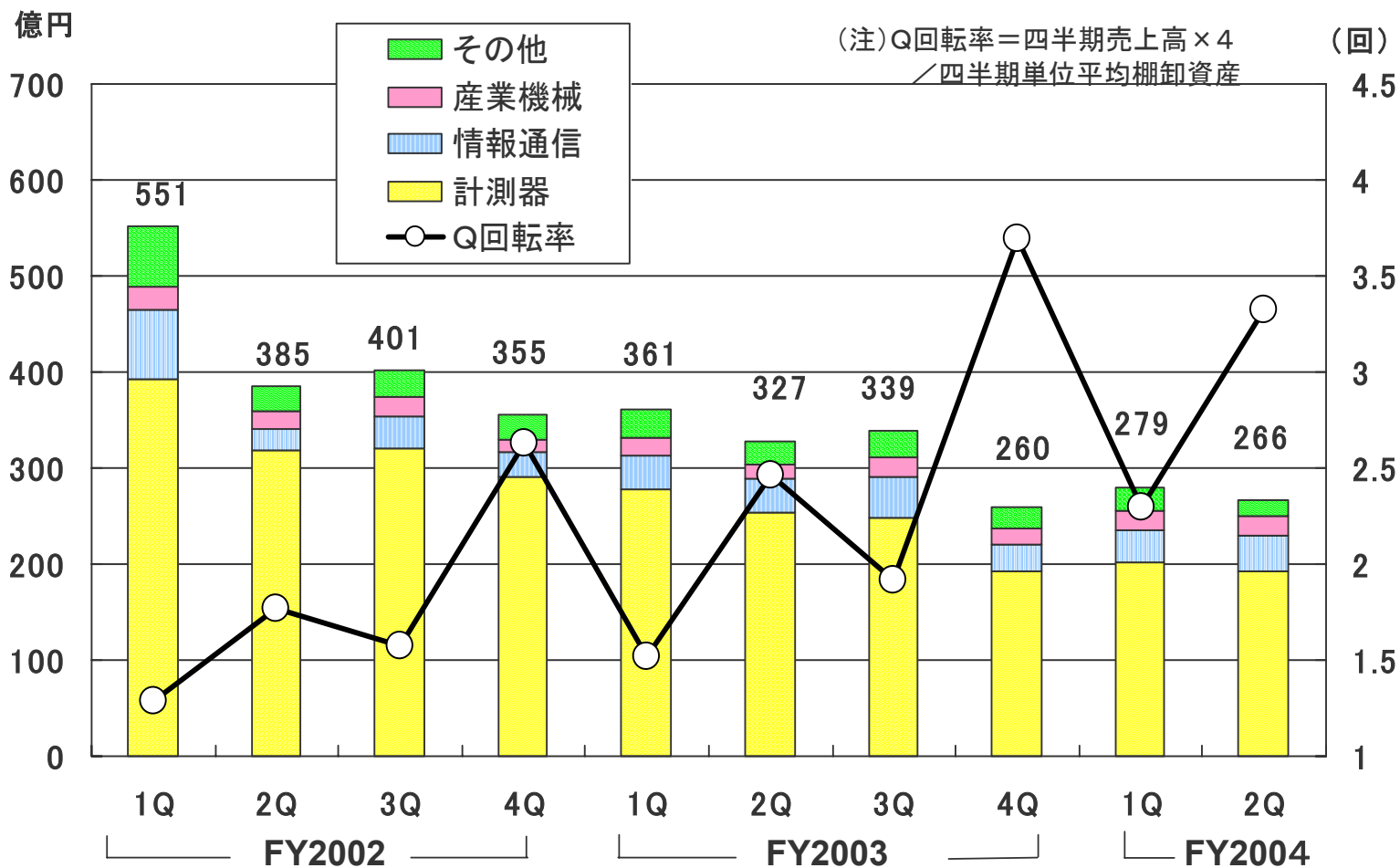
キャッシュ・フロー計算書(連結)

	当中間期	前中間期	FY2003
1. 営業活動によるCF	44	39	60
税引前利益	△ 8	18	19
減価償却費	19	22	44
固定資産売却損益	△ 2	△ 49	△ 49
運転資本計	29	51	68
売上債権	34	33	△ 24
棚卸資産	△ 3	23	87
仕入債務(ファクタリング含む)	△ 2	△ 6	5
退職給付費用関連	5	7	△ 11
法人税等	△ 6	6	△ 0
2. 投資活動によるCF	△ 5	51	44
設備投資	△ 8	△ 8	△ 13
事業・不動産売却収入	2	56	57
フリー・キャッシュ・フロー(1+2)	38	91	104
3. 財務活動によるCF	△ 45	138	86
借入金純増減	△ 40	△ 12	△ 14
CB・SB発行(償還)		150	100
配当金の支払	△ 6		
現預金の期末残高	348	392	352

単位: 億円
△: 減少

主な項目
のみ表記

棚卸残高推移(連結)



今後の事業展開(1/3)

- 計測器事業 移動通信用計測器

3G開発用、製造用計測器の需要拡大の波を捉える
日本

W-CDMA(FOMA(*))、UMTS)端末の開発用、製造用テスト
アプリケーションソフト開発用テスト
HSDPA開発用テスト

欧州・米国

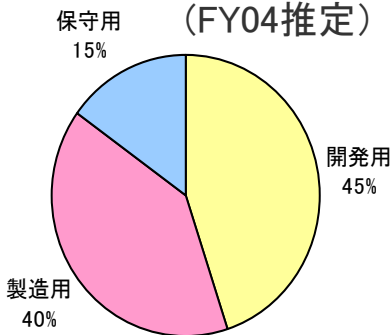
ICチップ開発、UMTS端末開発用テスト
HSDPA開発用テスト

アジア

欧州向け製造用の需要が立ち上がる

3Gソリューションの拡大

3G計測器の用途別割合
(FY04推定)



2006	開発	製造	建設・保守
アプリケーション	● ● ● ●		
通信制御	● ● ● ●		
インフラ	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●
端末	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●
ICチップ	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●

2004	開発	製造	建設・保守
アプリケーション	● ● ● ●		
通信制御	● ● ● ●		
インフラ	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●
端末	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●
ICチップ	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●



アプリケーションソフト開発用テスタ
MD8470A

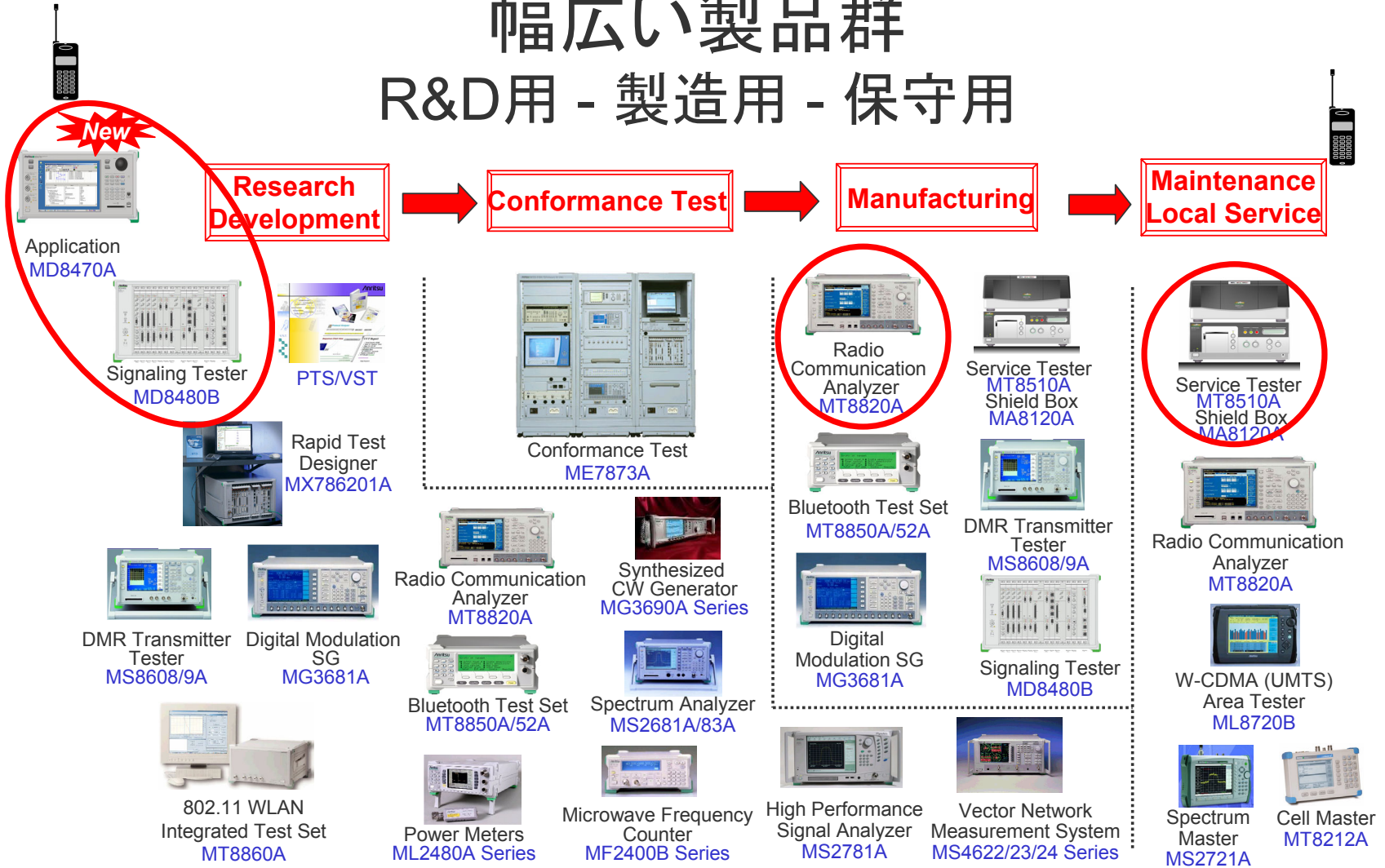


MD8480B MT8820A DoCoMo service tester

- : 日本
- : 欧州
- : 米国
- ★ : アジア

幅広い製品群

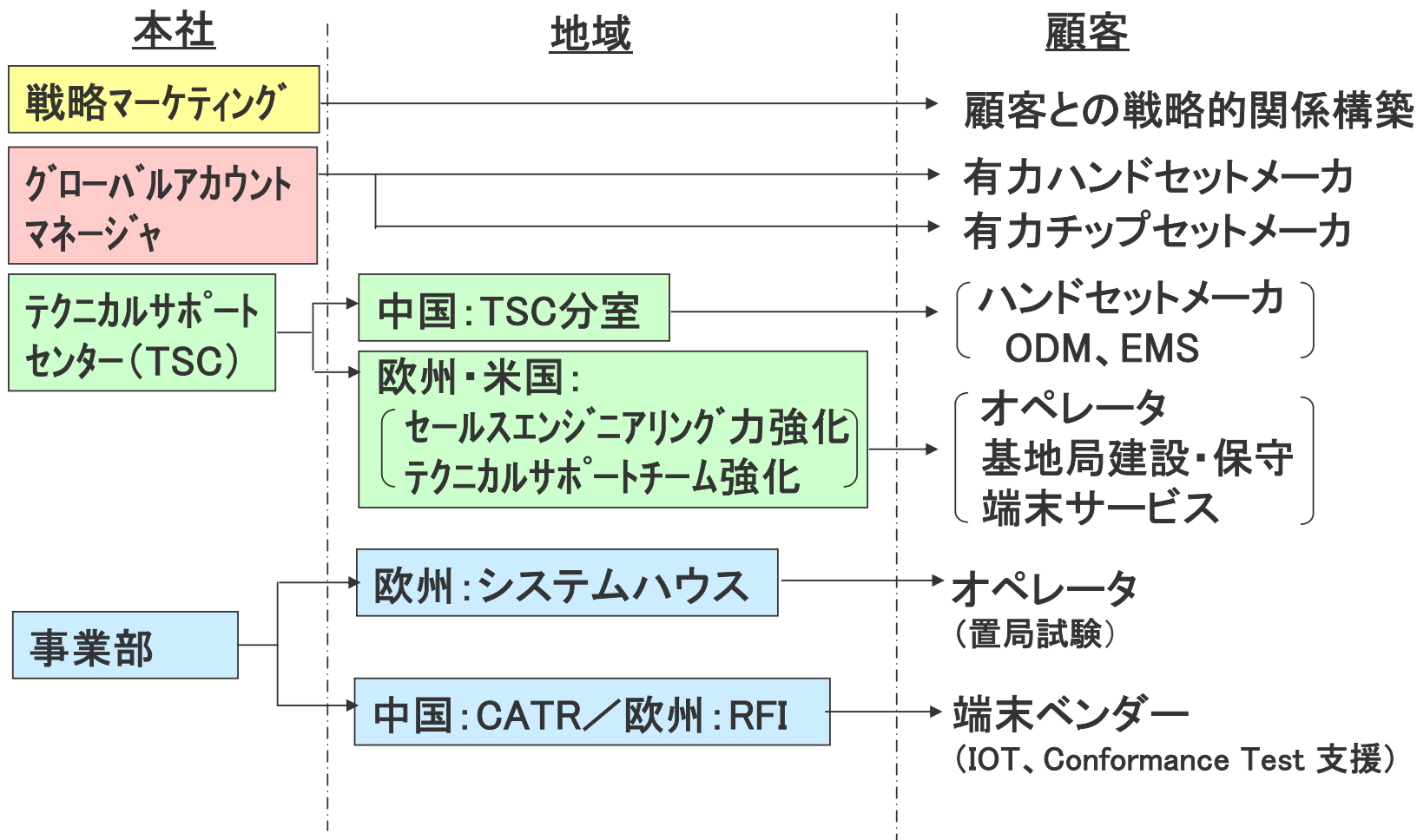
R&D用 - 製造用 - 保守用



Discover What's Possible™

Anritsu

海外顧客サポート力の強化



Discover What's Possible™

ODM : Original Design Manufacturer
EMS : Electronics Manufacturing Service
IOT : Inter-Operability Test

Anritsu

今後の事業展開(2/3)

新製品の投入による成長

– 汎用計測器



- 任意波形発生機能付き汎用信号発生器 MG3700A
- 各種無線応用の開発・保守用のコンパクトスペクトラムアナライザ MS2721A



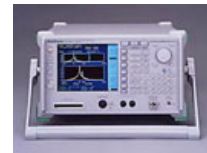
- 無線LAN製造用の無線LANテスト MT8860A
- ワイドバンドピークパワーメータ ML2480シリーズ
- デジタル放送(地上波、CATV)用アナライザ MS8901A



– IPネットワーク用測定器



- EoS試験用のネットワークパフォーマンステスト MP1590B
- 光アクセス回線試験用のアクセスマスタ MT9080シリーズ



今後の事業展開(3/3)

- 情報通信機器

- 画像監視システムのIPへの置換え需要継続
- PureFlowの市場開拓

- 産業機械

- X線異物検出機の機種／用途拡充
- 欧米への展開を図る

- 新規事業

- 印刷はんだ検査機
- アジア(日系企業)へ拡大

大型X線異物検出機
KD7337AW



SRIインデックスによるアンリツの評価

- **インテグレックス** : 26位
(東証1部502社中、03年度)
- **FTSE4Good global index** に選定
(うち日本企業は166社、02年3月～)
- **モーニングスター社会的責任投資株価指数**
に選定(150社中、04年9月～)



FTSE4Good Index Series

2005年3月期 年度業績見通し

(1) 損益及びキャッシュ・フロー

単位: 億円 ()は前年同期比増減額 △: 損失

	当期見通し				前期実績	
	連結		単独		連結	単独
売上高	865	(+81)	510	(+35)	784	475
営業利益	50	(+32)	21	(+19)	18	2
経常利益	30	(+55)	12	(+36)	△ 25	△ 24
税引前利益	30	(+11)	13	(-3)	19	16
当期純利益	17	(+6)	13	(+0)	11	13
FCF	70	(-34)	40	(-59)	104	99

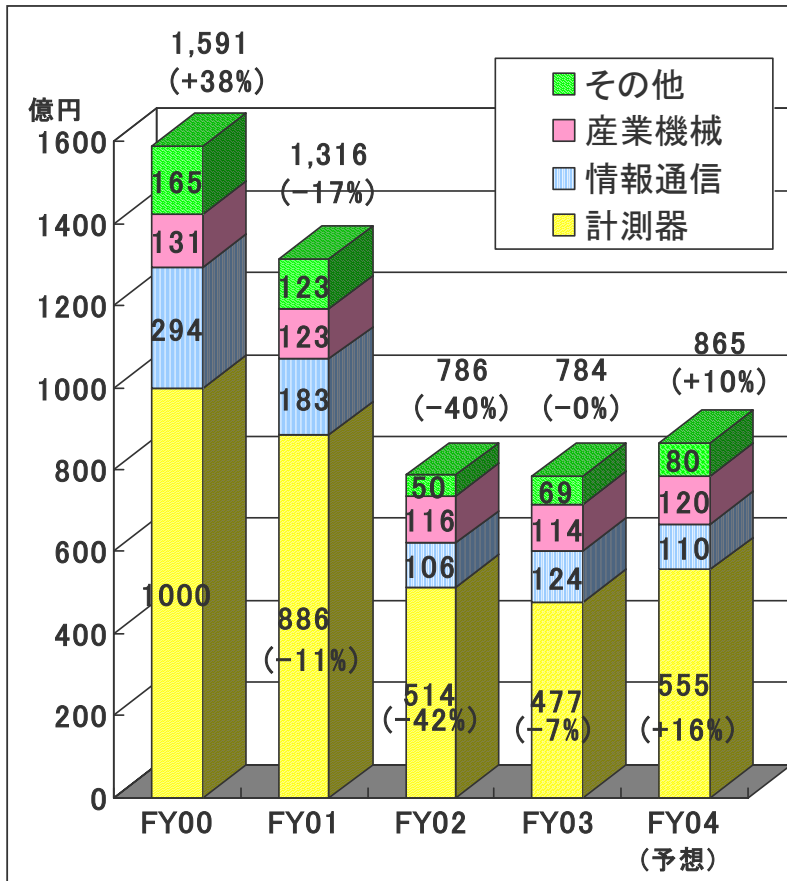
(2) 事業セグメント別(連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額 △: 損失

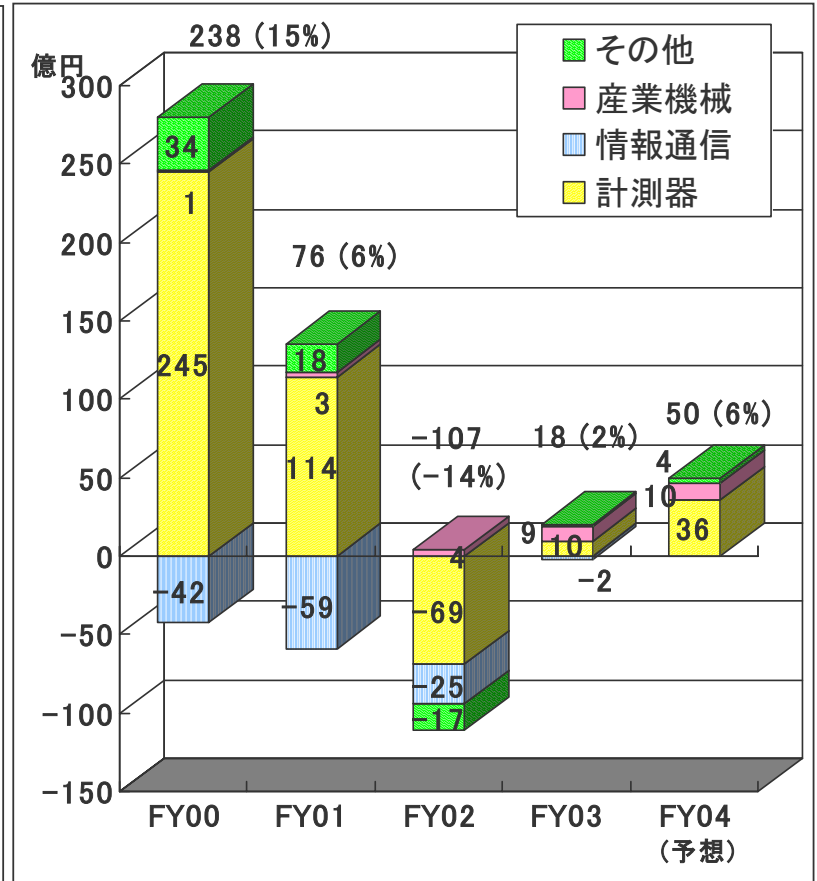
	当期見通し				前期実績	
	売上高		営業利益		売上高	営業利益
計測器	555	(+78)	36	(+26)	477	10
情報通信	110	(-14)	0	(+2)	124	△ 2
産業機械	120	(+6)	10	(+1)	114	9
その他	80	(+11)	4	(+3)	69	1
計	865	(+81)	50	(+32)	784	18

(3) 配当 1株につき7円(中間配当3円50銭)の予定

事業セグメント別業績見通し(連結)



売上高 (%) : 対前期伸率



営業利益 (%) : 営業利益率

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。